



夏休みイベントを実施しました！



かりとりもさくくの会だより



平成26年
9月10日発行



白旗西学高等学校
Shirahata Gakuin High School

前号でお知らせしましたとおり、横須賀市立明浜小学校との夏休み交流を実施しました。

【8月3日】

カップM A T U R I において、横須賀名物海軍カレーや、護衛艦カレーグランプリで優勝した濃厚味わいカレーを再現販売。お陰様で、グランプリカレーは目標の100食を完売！

猛暑の中でカレー作成や販売に携わっていただいた方々に紙面をお借りしてお礼申し上げます。

【8月13～15日】

横須賀の子供たち16名とPTAが総勢25名で来町。子供たちは全員が狩江内で二泊三日のホームステイを体験。昼間は狩江小の子供たちと一緒にシーカヤック遊びで交流。夜は狩浜納涼祭や渡江の歌舞伎くずし盆踊りを見学。

「帰りたくないよ！」との声の子供たちからも大人からも。

ホームステイ先の各ご家庭の皆様、ありがとうございました。



(お礼を述べる横須賀のPTA副会長さん)



(横須賀の先生方たち)

アカデミック狩江

当会では、昨年度に引き続き東洋大学と愛媛大学の交流を実施しています。

東洋大学は主に「狩江力」を、愛媛大学は、渡江を中心として「地域の歴史・産業・文化等」をゼミナールのテーマとされているとの事。地元では「普通にあるものやこと」が学術対象になることに驚いてしまいます。

東洋大は「天学院生の修士論文」作成を目的に、愛媛大生はインドネシアからの留学生を含めた学生に対するゼミの一環として、それぞれ計画的に狩江に滞在されます。ゼミを担当される先生や学生さんを見かけたら声をかけてあげてください。

事務局担当

東洋大・菅原先生



愛媛大・笠松先生



高齢者の元気の素は

3月に行われた「愛媛まちづくりシンポジウム in 明浜」で基調講演にいられた和田先生は「言葉のご馳走」と称して、聞く人みんなが元気になる励ましのフレーズを創られる言葉の料理人です。最近いただいた先生からのお手紙にあった「ご馳走(名言)」をご紹介します。

高齢者の元気の素は、キョウイクとキョウヨウがあること。

そうです。今日行くところがある。今日用がある。これぞ元気の素。なるほど、これならサプリメントもいらさず簡単に入手できる元気の素ですね。いつまでも元気でキョウヨウに溢れた生活を送りたいものです。

～ 大好評！ 狩江だんだん畑のガイドさん ～

ガイドの様子



総勢23名の城川中学校のみなさん。CATVも取材に♪



石が趣味という「えひめ石の会」さんたちが10名で。

城川中学校様よりお礼状が届けられました。

かりとりもさくのみな様
 秋さいの花がたくさん咲く季節になりました。
 元気で過ごされていますか。
 先日の自然教室において、ガイドをして頂き
 ありがとうございました。
 私は、段々畑をじっくり見方は始めてです。たく
 果色もきれいで心に残っています。ガイドさんは、詳しく
 優しく分かりやすく教えて頂いてすくうれしかったです。
 ガイドさんのエネルギーも素晴らしく、私たちが来たときも晴天
 時に、お出迎えをありがとうございました。
 段々畑で学んだことを今後の生活で生かしていきたいです。
 档に御礼にさせていただきます。これから暑い季節に入っ
 ていくので、体に気を付けてガイドさん（とり）仕事をしたらと
 過ごしてください。また個人で「行ったりした時
 に出逢えたりを、楽しみにしています。すきな
 時間を档にありがとうございました。



平成26年 6月25日
 城川中学校 1年生 一同

みかん農家の方や地域住民の皆様のご迷惑に
 ならないように案内しております。
 引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

お問合せ等はガイド事務局まで

電話：89-1368 かりとりもさくの会

種まき班 班長の一言

種は蒔けただろうか

原田義徳

種まき班がスタートして一年が過ぎた。横須賀市の明浜小学校との交流、東洋大学、愛媛大学の指導を受けた地域づくり、アンケートの実施、まちづくりシンポジウムの開催などの活動を続けてきた。専任の事務局も置いた。その先にあるものは、今年度で閉校になる狩江小学校の校舎を活用し、地域の活性化につながる活動拠点を創ろうということだ。そのため種を蒔く活動を続けてきた。小学校活用のための計画づくりを進めている。九月中には計画をまとめ、住民のみなさんにも周知して検討してもらわなければならない。計画の中にも、これまでに蒔いてきた種が反映されなければならぬ。一年を過ぎた今、種まき班の班長として反省している。とはいえ、時間は止まったり戻ったりはしてくれない。これまでからどうするか、今からどうするか。もう一度、考えてみたい。地域という土壌の中で。

今回は、種蒔き班の若手、佐藤和文さんに